

伊那谷スケッチ

～自然と文化を巡るふるさと再発見～ 第21回



●写真キャプション

(田植え前の線引きの様子・著者本人)

●本文

ミゾゴイに会った。

夕暮れ時の薄暗い林の中で彼は小道の向こう側から猫背で歩いてきた。私に気づくと、びっくりしたように縮こまっていた首を伸ばし、ボーリングのピンのように一瞬なって、林の中に飛んで行った。明るい茶色で、目の周りと言の周りはキレイな空色。写真で見るよりよっぽど美しく、仕草もユニークな鳥だった。思わず嬉しい遭遇だった。

ミゾゴイは観察される数が急激に減っている鳥で、トキやヤンバルクイナなどと同じく、国際自然保護連合の絶滅危惧種に指定されている。人の生活が身近にある「里山」といわれる環境を好んで住む鳥ではあるが、とても警戒心が強く、鳴き声は聞いてもほとんどその姿を見せることはない。巷では「幻の鳥」

ともいわれているらしい。オオシカ谷では鳴き声をよく耳にし、村内の愛鳥家の間では飛来の確認が毎年行われている。

ミゾゴイは夏鳥で、日本で田植えが始まる頃、南国から渡ってくるためか「田の神様」とも言われている。私とその「田の神様」と出会ったのは5月下旬、すでにオオシカ谷のほとんどの田んぼで田植えが終わったっている中、焦りながら自分の田んぼの代かきの準備をし始め頃だった。「田の神様が応援しに来てくれたんだな」と思っていた。けれども先日、田植えが終わりホットしながら事の次第を知人に話にしたところ「そりゃあ、尻を叩きにきたんだ」と言われ、返す言葉が見当たらなかった。いい思い込みの中で田植えができてよかったと思った。

「農」というコミュニケーションの場

6月1日早朝、遅れていた「マイ田んぼ」の田植えがやっと終わった。現在、私が管理している土地は段々畑のようになっていて梅畑が1枚、畑が2枚、田んぼが2枚。近所の方から管理を預かっている。いつも一人で作業するにはちょっと面積が広いなと思うけれども、パートナーをなくした村のお年を重ねた先輩たちは、もっと広い面積を作付けしている。そんな後ろ姿を見るたびに、態度を改める日々である。

管理している土地は、戦前戦中にかけては田んぼだったが戦後は長らく畑になっていた。そのため田んぼにしても水持ちが悪い。代かきがうまくいくと、そんなことは解消されるようだが、なんといっても一人で四つん這いになっての昔ながらの代かきをやっているのもうまいと「うまい」といった実感はない。水が漏れる！ というのが私の田んぼの常なのだ。そんなド素人が行きあたりぼったりで始めた「野良仕事」を地域の人たちはどんな目で見ているのだろうか。

好いのか、悪いのか、私の農地は道端にあるため村の人の往来が激しい。私が畑に立っているとクラクションを鳴らしてくれたり、ご丁寧に声までかけていってくれたりする。それは春の田んぼで作業をし始めた時が一番バラエティに富んでいて面白い。

「今年は始めるのがおせーじゃねえか、嫁にいったのかと思っと思ったわっ」「今日は御手子がおるで、早くできるら」「いちごがとれたで、差し入れた」「や

り始めれば早いわ」「鍬の柄を固定してやるで、あとで持ってこい！」「おめえさまの田んぼはなんと言われとるか知っとるかっ！『しんぱいだ』だに(笑)」などと、今年も大鹿ジョークを満載に声を届けてくれた。どう対応すればいいか困る時もあるけれど、それも含めてオオシカ谷に吹く「風」のように感じている。汗をかきかき畑に立っていると時折、汗をぬぐってくれるような心地のいい風に出会うこともあれば、不意打ちの突風に出会うことだってあるということだ。

田んぼづくりをはじめて5年目の今年、代かきがなんだからうまくいったようで、水持ちもそこそこの田んぼが出来上がった。「継続は力なり」を実感できた田作りだった。考えてやることも大切だけど、私は数をこなして感覚を使っていく方が性にあっているんじゃないかとおもったりしている。大地と関わりをもっていくと、自分自身を含めてここの土地で暮らしてきた人やそれを取り巻く環境について寛容になれるような気がしている。ある一定の場所に生活していくということは「許容する姿勢(態度)」を深めていくことだと思う。

私が管理を預かっている土地の持ち主である男性は今年100歳に手が届く。彼は現在、街の特別老人ホームに入所しているがとてもお元気で、毎年秋の終わりになるとここの畑で採れた大豆を届けにいくと嬉しそうに受け取ってくれる。広げた彼の手は節ぐれていて、爪がすりへって短くなっている。指の先っぽがないところもある。働き者の手だ。でも握手をするととてもやわらかい。村で生きてきた人は、そういう手を持っている。力強くて優しさが伝わってくる手だ。彼がかつて触れていた大地と、今私が触れて、感じている大地は繋がっているのだと思うと嬉しくなる。私もそういう手になりたいと思う。